

令和5年度 年度評価結果表

施設の概要等	施設名称		慶雲館		
	施設所管課		文化観光課		
	施設概要		慶雲館 【本館】 明治20年建築、延床面積:492㎡、構造:木造2階建、寄棟造、棧瓦葺 1階:展示室、床の間、2階:展示室、玉座の間(国指定名勝構成物件) 【茶室】 明治45年建築、延床面積:46.34㎡、構造:木造平屋建、棧瓦葺(国指定名勝構成物件) 【表門】 平成12年建築、延床面積12.60㎡、構造:木造、棧瓦葺(国指定名勝構成物件) 【中門】 明治45年建築、延床面積18.25㎡、構造:木造、桧皮葺(国指定名勝構成物件) 【露地門】明治45年建築、延床面積4.40㎡、構造:木造、桧皮葺(国指定名勝構成物件) 【庭園】 明治45年作庭、国名勝指定物件 梅の館 平成12年建築、延床面積:723.78㎡、構造:鉄骨造2階建、棧瓦葺 1階:展示室、2階:展示室、会議室		
	指定管理者名		長浜観光協会		
	指定期間		令和5年4月1日～令和6年3月31日		
管理実施状況	管理運営業務		① 慶雲館条例第3条各号に掲げる事業の実施に関する業務 一 地域文化及び建造物に関する資料等の展示 二 保存資料についての説明及び助言 三 観光振興を目的とする特別展等の開催 四 建物及びその附帯施設等の公開と供用 五 その他慶雲館の設置の目的を達成するために必要な事業 ② 管理施設及び付属施設の維持管理に関する業務 ③ 管理施設の使用許可に関する業務 ④ 管理施設の使用に係る利用料金の徴収に関する業務 ⑤ 盆梅展の運営に関する業務 ⑥ 盆梅の育成及び管理に関する業務 ⑦ その他市長が必要と認める業務		
	自主事業の実施状況		・伊吹高校書道部書展 R5.4.1～R5.4.6(6日間) 296人 ・染織工芸作家 外村達彦 R5.4.21～R5.5.7(17日間) 522人 ・第8回長浜さつき盆栽展 R5.5.17～R5.6.4(19日間) 1,509人 ・長浜盆梅展フォトコンテスト作品展 R5.6.10～R5.7.2(23日間) 801人 ・鉄道模型と遊ぶ夏休み R5.7.15～R5.8.27(34日間) 3,829人 ・竹灯かり展 R5.9.13～R5.10.1(19日間) 818人 ・スタジオアジュール梅アート展 R5.11.11～R5.12.3(23日間) 1,231人 ・第73回長浜盆梅展 R6.1.10～R6.3.10(61日間) 29,968人		
	事業成果（令和5年度）	利用状況	令和5年度実績	令和4年度実績	特記事項(増減理由等)
43,584人			46,685人	通年公開の入館者数は2,151人の増、長浜盆梅展は5,252人の減となった。1月下旬の大雪や、令和4年度実施された県の旅行支援施策「今こそ滋賀を旅しよう」の利用などで人数が予想よりも多かったことから、今年度の入館者が下がったと考えられる。	
利用者アンケートの結果			評価区分		
実施概要		方法:盆梅展の来場者にアンケート 期間:盆梅展開催期間		最多項目	満足度 評価
				○	非常に満足度が高い
	結果	約72%は満足と回答しており、やや満足も含めると約94%に上る。いっぽう、約2%はやや不満・不満と回答している。切り絵や竹細工といった盆梅展以外の要素は良い評判もある一方、不要といった声も見られる。そのほか、開花状況に対する不満があった。			満足度が高い
利用者の声をふまえ、反映した事項	伝統的な本来の盆梅展の見せ方を活かしつつ、新しい企画展示も今年の反省を踏まえながらバージョンアップしていく。			普通	

収支状況	施設における収支		令和5年度実績	令和4年度実績	特記事項(増減理由等)
	収入(千円)		48,188	50,557	通年公開時は入館者数が昨年度対比増であったが、盆梅展時期の入館者数が伸び悩んだ。盆梅展時期の入館者数が伸び悩んだ理由は、1月末の大雪が原因の一つである。またR4年度は県の旅行支援施策「今こそ滋賀を旅しよう」のキャンペーン時期と重なり、例外的に入館者数が多かったこともあり、昨年度対比減となった。
	(指定管理料)		8,912	9,015	
	(利用料金収入)		22,233	24,707	
	支出(千円)		57,172	56,214	
	その他特記事項				

年度評価	評価項目		主な評価の視点		配点	評価点
	①設置目的の達成の取組		施設の設置目的の達成、利用者サービスの向上		40	18
	②効率性の向上等の取組		経費の節減等、収入(利用者)の増加		25	15
	③適正な管理運営の取組		経理状況、管理運営費の実施状況、公共性・安全性等の確保		35	30
	合計				100	63
	年度評価及びコメント		年度評価	国の観光再始動事業の採択をうけ、人工雲海の演出や体験プランを実施したこともあり、242人の外国人観光客が来館し、R4年度より100人以上増えた。しかし、R4年度と比較して盆梅展時期の有料観覧者は3600人以上減少した。これは、大雪の影響やR4年度が例外的に旅行支援で来館者が多かったことも影響しているが、それにより収入は大きく減少し、900万円弱の赤字となった。有料観覧者数を増やし収支の改善を図るために、来場者アンケートからニーズと企画内容に乖離がないか吟味する、見込み客・潜在顧客を推測し、企画内容やプロモーション方法(宣伝期間・媒体など)の見直しを図るなどしていく必要がある。		
		B				